

警報新聞

隨筆

君宗の生物 (二) 高太郎

こう考へて来る人問て... 陽氣がよくなる虫蝶が目... 然に湧き出た生活に適當... 球が丁度彼らの生活に適當... した處に湧いたものらしい... 冬になつて寒くなる虫蝶... 一齊に影をひそめる様に... 地球が冷却して来る人問... といふ生物も影を失ふ事... であらうは限らない限り... に渡る古代装束の行列、筆か。

靈と肉

平時代の思ひ出 長岡加登晴

野 戦... 緑したる初夏の夕、私... 共は一團をなして遊廓の大... 門前で野戦(路傍説教)を... んでゐた。どかどかどかどか... 太鼓の音は亡命の間に... とか？然し私共仲間には... 義士の打入りの陣太鼓、さ... ては進軍ラッパにも等しき... 感があつた。獅子舞の銅... 鑼を張りあげて歌ひ、且... つ熱一天張りの雄辯を奮... った。

一衣がけの人々は周囲に... 集まつて立聞きしてゐた... 又門に行んで耳をかたむけ... てゐるのもあつた。

休刊... 定額... 発行所...

他人を益することか！私... は非常に恵まれて幾世橋か... 練隊七百人許りを繰り込... ました。

波邊 歌謡

(222) 官野 歌春

函館戦争の中、最も悲惨... 壯烈な戦死したのは海兵を... つぎに海軍、抗した松前... 藩の藩士である。松前は今... 海軍渡島國、南端福山に居... 城を構へ三萬石の小藩で... あるが、蝦夷地一圓御預り... と云ふ重大な北門の要を... をせつかつてそれが爲めに... 特に幕府から毎年一萬八千... 兩の拜領金が下つた恩、徳... 川家に対して特別な恩顧を... 仰戴つたお家柄であるが、... 羽の諸藩悉く恭順を表明し... と云ふ事を知りて藩主志摩... 守徳廣が始めの家臣一同勤王... 説に傾いた、そして健気に... その脱走隊を引き受けて... 一戦を戦ひ、奉公の魁をし... ようと決されたことを幕軍... は更に注意せしめ好意を表... るものと見てゐた。



浪江町を離れ、一里在の... 幾世橋へ... 浪江町を離れ、一里在の... 幾世橋へ... 浪江町を離れ、一里在の... 幾世橋へ...

心配いらない! トリックス... 淋病最新薬... 特約店 山野邊藥局

上田醫院... 平町南町... 電話二二九番

貸切自動車の御用命は... 高級車で乗心地の好い... 昭和三十四年三月

蜂ブドウ酒... 人生の最大な歡喜は... 一家揃つて健康... なることでありませう... 美はしき皮膚の... 精影と、魅力ある健康とを創造す... 蜂ブドウ酒の食前常用は、人間生活... をヨリ光明へ、ヨリ幸福へと導く... 唯一の推選であります。

ヒゲタ醤油... 適川御省内宮... 特約店廣瀬支店... 電話五四番

高久病院... 平町南町... 電話五二三番... 内科小兒科... 外科花柳病科... 耳鼻咽喉科... レントゲン

西村屋藥舖... 石城小名濱町... 電話三三番... 小野晋平... 電話六番

